

第 8 回 原子力に係る安全性・信頼性向上委員会 議事概要

- 1 開催日時 2022 年 11 月 29 日（火）10:00～12:00
- 2 開催方法 Web 開催
- 3 出席者 野口委員長、高田委員、天日委員、藤本委員、松田委員
（幹事）原子力監査室長

4 議事概要

川内原子力発電所 2 号機第 5 回及び玄海原子力発電所 4 号機第 3 回の安全性向上評価届出内容、安全性向上評価届出書第 2 章のうち「保安活動の実施状況」及び第 3 章のうち「安全性向上に係る活動の実施状況に関する中長期的な評価」について、様々な視点から検討いただいた。安全の方針に関する主な意見等は以下のとおり。

[主な意見]

(1) 川内 2 号第 5 回安全性向上評価届出書の骨子

- ・リスク評価は、必ずしも PRA だけではない。また、PRA やデータの精度向上を図るだけでなく、PRA をどう活用するか等安全の捉え方を考えて欲しい。福島第一原子力発電所の事故がなぜ想定できなかったか、安全の捉え方について考えて欲しい。
- ・DX 導入はよい取組みであるが、新たなシステム導入によるサイバーセキュリティ等に関するリスクの視点が必要と考える。
- ・教育訓練をどのようにやれば安全に効果的に資するかは、難しいが重要なことであることから、一度教育訓練のレビューを行う等検討していただきたい。
- ・PRA 評価において、個別プラントの設備の故障率の実績を踏まえるというのは非常に重要なことであり、故障率データの観点から、今後に資するような情報が得られるよう検討して欲しい。

(2) 玄海 4 号機第 3 回安全性向上評価の骨子について

- ・自主的な安全活動を積み重ねることは大事である。毎回報告頂き、安全活動が進展していることを感じる。
- ・訓練も含めて、原子力施設に対するそれぞれの安全の取組みに抜けがないかを見る活動が継続的な安全の取組みとして大事である。

- ・安全には技術伝承が大事であるが、DX等の新たなシステムが投入される際には、システムに係る技術の伝承ができて、安全に関する技術が必ずしも伝承されない懸念がある。また、受け取る側の感性や経験が異なるときに、従来の伝承方法で伝わるのかということも考えなければならない。

(3) 安全性向上評価届出書 第2章「保安活動の実施状況」について（資料1）

- ・実績指標において改善が確認された場合には、その改善のどういったところが効果的だったのかピックアップして他の活動に拡充するといった観点をもつとよい。
- ・非常に多くの訓練をしているが、フィードバックの実施も考慮すると大変な業務だと考えられることから、効率的なやり方を検討するとよい。

(4) 安全性向上評価届出書 第3章「安全性向上に係る活動の実施状況に関する中長期的な評価」について（資料2）

- ・安全性向上に係る活動についてレビューする際には、何を確認すればチェックできるかを考えることが重要である。評価を形骸化した取組みとすることなく、今まで通り九州電力の実際の安全性向上につなげるということを強く意識して実施して欲しい。

以 上